

探究心 研究者



ナシダイ Researchers
山梨大学の研究者達
RESEARCHERS OF YAMANASHI UNIV.
vol.10

進路を模索し、大学進学を目指し
日々努力する学生諸君。
各自が未来に何を描き目標を定め
何を大学で専攻するだろうか。
そこで、
すでに目標を決定
努力を続け研鑽し
研究者としての日々を
送りながら、教育者として
山梨大学で若者たちに
その探究心を伝え続ける人々の
考え方と日常を紹介しよう。
明日への糧となることを願いつつ。

目次

- 2 森長 久豊(教育学部学校教育課程科学教育コース 准教授)
- 3 鴨川 明子(教育学部学校教育課程幼小発達教育コース 准教授)
- 4 佐藤 明(医学部医学科内科学講座循環器内科学教室 教授)
- 5 伊藤 友香(医学部医学科生化学講座第2教室 助教)
- 6 有元 圭介(工学域クリスタル科学研究センター 准教授)
- 7 李 信英(工学部機械工学科 助教)
- 8 山村 英樹(生命環境学部生命工学科 准教授)
- 9 榎 真一(生命環境学部地域食物科学科 助教)
- 10 布村 猛(国際交流センター 特任助教)
- 11 久島 萌(出生コホート研究センター 特任助教)
- 12 貝沼 元気(大学院医工農学総合教育部統合応用生命科学専攻生命農学コース 博士課程2年)
- 13 小見山 朋子(大学院医工農学総合教育部工学専攻コンピュータ理工学コース 修士課程2年)

- 14 男女共同参画推進室の取り組み・制度



研究心
探 究 者

資源×機能

研究
内容

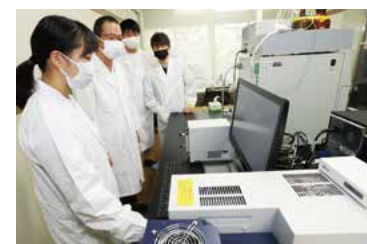
教育学部学校教育課程
科学教育コース
准教授
森長久豊

機能性ポリマーの開発が主になります。特に、石油に依存しないポリマーの合成が今最も興味のあるテーマです。たとえば、再生可能資源である植物成分を石油の代替資源として用いることができます。私の出身地である愛媛県では、みかんなどの柑橘系植物の栽培が盛んです。加工過程で大量の絞りかすが発生するので、その有効活用が求められています。これまでのところ、柑橘類精油成分を原料とした様々な機能性ポリマーの開発に成功しています。

Reason 研究者になったきっかけ

肉眼とは違う世界

小さいころ、顕微鏡でモノを観察することや望遠鏡で星空を観察することに興味がありました。その中で、微生物観察に関する自由研究を行ったことが研究者になりたいという大きなきっかけになったと思います。学生の頃は微生物を用いた水処理に関する研究に興味を持ち、地球環境に関わる仕事に将来携われたらいいなあと漠然とした夢を描いていました。大学院を修了してからは、地球環境保護に役立つモノを自ら作りたいという気持ちが強くなり、博士研究員として有機合成・高分子合成の研究室の門を叩きました。分子設計して目的とする物質を合成することへのめり込みました。このときの経験が現在の研究内容につながっています。



ポリマーの熱物性を測定中です。



論文執筆に動も毎日です。



家族で見た沖縄の海に浮かぶきれいな夕日です。ゆったりとした気持ちになります。

Recommend 中高生にオススメ

複数の視点を持つ

本や新聞を読むことをお勧めします。最近、インターネットで様々な情報を簡単に入手できるようになりました。しかし、それが果たして本当の情報でしょうか。中には間違った情報もあります。正確な情報や調べたいことは、本や新聞から得るようにしましょう。また、いろいろな知識を本や新聞から得ることで、幅広いものの見方ができると思います。何事に対しても複数分野の視点が必要なのです。

Healing 癒し&気分転換

家族と過ごす時間

私の一番の癒しは、家族と過ごすことだと思います。妻はそれとなく応援してくれるのでいつも感謝です。小学生と中学生の子供は、だんだん憎まれ口をたたくようになりましたが、二人とも素直です。中学生の子供は、部活や勉強に忙しくなり、昔のようにいろいろな場所へ行くときについて来なくなったことが少し寂しいことではあります。小学生の子供は、相変わらず遊ぶことに夢中です。子供の成長は最もうれしいことで、彼らが将来独立して巣立っていき各分野で活躍することを楽しみにしています。

Background

学歴・経歴

略歴: 広島大学大学院工学研究科博士課程後期移動現象工学専攻修了>>日本学術振興会研究員>>山形大学工学部教務補佐員>>近畿大学分子工学研究所博士研究員>>高知工業高等専門学校物質工学科助教>>同准教授>>現職
取得学位: 博士(工学)



研究者
探

比較教育

研究
内容

教育学部学校教育課程
幼小発達教育コース
准教授
鴨川明子

専門は比較教育学。海外の教育や学校、子どもについて学ぶ分野です。大学院生の時に、母校の交換留学プログラムを利用しマラヤ大学に留学してから現在まで、マレーシアの教育全般を研究しています。マレーシアのほかに、東南アジアのタイ・ブルネイ・シンガポール・インドネシアでも、フィールドワークを行ってきました。「キャリア形成とジェンダー」が主たる研究テーマで、SDGsに関わる新しい取り組みも始めています。

Reason 研究者になったきっかけ

大学の先生に向いてる？

高校生の時から新聞記者に憧れがあり、マスコミに強い早稲田大学に進学しました。大学4年生の早い時期に教育系の出版社から内定をもらったのですが「このまま就職していいのかな…」と悩みました。その時に、「大学の先生の方が向いんとやない」と愛媛の親に言われて、初めて研究者を意識しました。それがきっかけです。マスコミよりも研究者の方が「子育てと両立しやすい職」というイメージも漠然と持っていました。「何になりたいか」よりも、「何がしたいか」「目指すゴールは何か」が大事で、そのために「何になることが最善か」を大学4年生の時に考えました。当時から「教育をよくしたい」という明確なゴールを持っていたため、研究者になって大正解だったと実感しています。



山梨県内の高校でのSDGsとジェンダーをテーマにした出前講義。(たくさん笑いました!)



留学生も参加する比較教育学ゼミ。



マレーシアで「学校に行けない子ども」にインタビュー。

Recommend 中学生にオススメ

SDGs活動と海外体験を

SDGsに関わる活動をぜひ行ってほしいです。そのために海外に、できればアジアやアフリカ、中南米などの途上国に目を向けてください。途上国から、意外にも見習うべき点が多いものです。大学院でマレーシア語を学んだ経験から、英語以外の言語を習得するのもオススメです。まずは、日本で留学生と交流したり、オンラインで海外の方と交流したりして、時期が来たら海外に行ってくださいね。SDGsに関わる出前講義も大歓迎です!

Healing 癒し&気分転換

卓球に真剣!

週一回の卓球練習です。PTAの卓球大会の人数合わせで駆り出されたのをきっかけに、30年ぶりに練習したらはまりました。昔に比べて技術や用具が進化しているところや、いろいろな年齢層の方と、大笑いしながら楽しめるところが卓球の魅力です。今ではアマチュアのチームに所属して、大会に出場しています。ある自治体の卓球大会で個人3位に入賞した時は、学会賞をいただいた時と同じくらい嬉しかったです。最近では、5年生の長男に負けたくないことと、PTAの大会で団体優勝することが目標で、フットワークを重点的に鍛えています。次男も三男も卓球を習い始めたので、近い将来、ダブルスを一緒に組んで大会に出場したいと思っています。

Background

学歴・経歴

略歴: 早稲田大学社会科学部社会科学科卒業>>早稲田大学大学院教育学研究科修士課程>>マレーシア・マラヤ大学留学>>早稲田大学大学院教育学研究科博士後期課程>>日本学術振興会特別研究員(DC2)>>早稲田大学教育・総合科学学術院教育学部助手>>日本学術振興会特別研究員(PD、京都大学大学院教育学研究科)>>早稲田大学国際学術院大学院アジア太平洋研究科助教>>2012年から現職
取得学位: 博士(教育学)



研究者
探

心筋再生

研究
内容

医学部医学科内科学講座
循環器内科学教室
教授
佐藤明

循環器内科は心臓病を治療する診療科です。中でも急性心筋梗塞の診療・研究を行なっています。心筋梗塞によって心筋細胞が壊死して心機能が著しく低下すると、心不全を発症し入院を繰り返し死に至ります。できるだけ早期にカテーテル治療を行なって心筋梗塞患者さんの命を救うこと、心不全患者さんの心機能を改善させるための新たな治療法として「自家心臓線維芽細胞を用いた心臓再生治療」の研究を行い、最先端医療の構築に取り組んでいます。

Reason 研究者になったきっかけ

父親の心筋梗塞

循環器内科を専攻するきっかけは、大学3年の時に父が心筋梗塞で入院したことでした。主治医から「急に病状が悪くなり命にかかわることがある」との説明を受け、とても不安になったのを今でも覚えています。日々、患者さん・家族に安心・安全を提供する医療を目指して診療を行なっています。できるだけ早期に心筋梗塞の治療を行なっても、著しく心機能が低下した患者さんが2割程存在します。そこで心機能を改善させるための新たな治療法として、一部の心臓線維芽細胞が心筋細胞増殖能を有していることを見出しました。マウスやブタ心筋梗塞モデル実験で心機能の改善効果を確認し、現在、人への臨床応用を目指して臨床試験を行なっています。



じっくり一人で考える時間も大切です。



循環器内科のメンバーと一緒に学内の桜並木で。



海外旅行イタリア・カプリ島にて。

Recommend 中学生にオススメ

囲碁とスポーツ

「囲碁」をオススメします。ルールが少し難しいですが、大変魅力的なゲームです。白と黒の石を交互に打ち合い、相手の石を囲んで多くの陣地を取得した方が勝ちとなります。いかに有利に勝ち進んで行くか、局所的な戦いや全体的な対局感など、深い読みと戦略的な構想力を養うことができ、将来的に役立つと思います。中学生の頃「空手」をやりましたが、なんでもよいので運動などをして体力を養っておくのも大切かと思えます。

Healing 癒し&気分転換

テレビと海外旅行

日曜日のNHK囲碁番組でプロ棋士の囲碁対局を見るのが気分転換になっています。小学生の時に従兄弟から囲碁を習い、双子の兄と一緒に毎週対局していました。いつも負けてばかりでしたが、今となっては懐かしい思い出です。最近ではコロナ感染の流行で旅行に行けません、家族旅行や国際学会で海外に行くのが楽しみです。家族で世界各地のディズニーランドに行ったり、医局員と共にアメリカやヨーロッパの観光地を巡ったり、美味しい料理を食べたりするなど、日常を忘れて楽しむことにより心が癒されます。帰国後は新たな気持ちで仕事に専念できるようになります。一刻も早くコロナ感染が収束して、自由に旅行ができることを祈るばかりです。

Background

学歴・経歴

略歴: 東京医科歯科大学医学部医学科卒業>>同大学附属病院内科研修医>>武蔵野赤十字病院循環器内科医師>>横須賀共済病院循環器内科部長>>筑波大学大学院人間総合科学研究科循環器内科講師>>同大学医学部医療系循環器内科准教授>>現職
取得学位: 博士(医学)

研究者
探り手

細胞×情報



医学部医学科
生化学講座第2教室
助教

伊藤友香

研究内容

細胞は外部からさまざまな情報を受け取り応答します。私はこの情報伝達の過程に興味を持って研究をしています。TGF-βとよばれるタンパク質はがん細胞を別の臓器へ転移させる悪者である一方で、私たちの体内の正常機能にも大切な因子です。TGF-βの刺激を受け取った細胞が、どのような仕組みで細胞応答を起こしているのか明らかにすることで、正常な細胞には影響せずがん細胞のみに作用する薬剤の開発につながると期待されます。

Reason 研究者になったきっかけ

研究室仲間からの刺激

大学4年時に配属された研究室の仲間の影響が大きいと思います。私は薬剤師になりたくて薬学部に入学したのですが、その後は特に目標もなく学生生活を過ごしていたように思います。しかし、研究室の先輩方は夜遅くまで実験をし、活発な議論を繰り返して研究に没頭していました。その姿を見て、私もできるところまで自分の研究を突き詰めてみよう、と思ったことがきっかけになっています。周りの同級生は修士2年で卒業就職する人も多かったのですが、自分の研究成果を論文という形で残したいと思い、博士課程に進学しました。今でも、大学の研究室時代の仲間とは交流があり、会う度にたくさん刺激をもらい、勉強させてもらっています。



国際学会でポスタープレゼンテーション賞を受賞。



研究室のメンバーと植物園のカフェでランチ。



夏休みにスイス、イタリア、クロアチアを巡る旅行に行きました。

Recommend 中高生にオススメ

友人を作ろう

私は中学生、高校生の時に大親友と出会い、お互いの好きな小説や音楽などについてとことん語り尽くしました。お互いの目標に向かって異なる大学に進学しましたが、彼女は今でも貴重なアドバイスをくれる大切な友人の一人です。大学に入ると専門性が高くなり、異なる分野に興味を持つ人との出会いが少なくなることもあると思います。中高生の時から多くの人と交流を持つことで自分の視野を広げて、人生を豊かにしてください。

Healing 癒し&気分転換

写真とサイクリング

今、スウェーデンにあるウプサラ大学に長期出張で来ているのですが、大学の植物園に行き、様々な植物の写真を撮っているのが私の癒しの時間です。ウプサラは山梨より涼しいので植物の成長も遅く、毎週新たな発見をしています。写真を撮っているときは相当集中しているようで、職員の方に、勉強熱心ね、などと声をかけられることもあります。また、週末に行く同僚とのサイクリングはとても良い気分転換になっています。片道10km以上の距離を一列になって進み、目的地に着いて大自然の中で食べるお弁当は格別です。これまで特に運動はしていなかったのですが、運動した次の日も体調が良いので、帰国後も続けたいと思います。

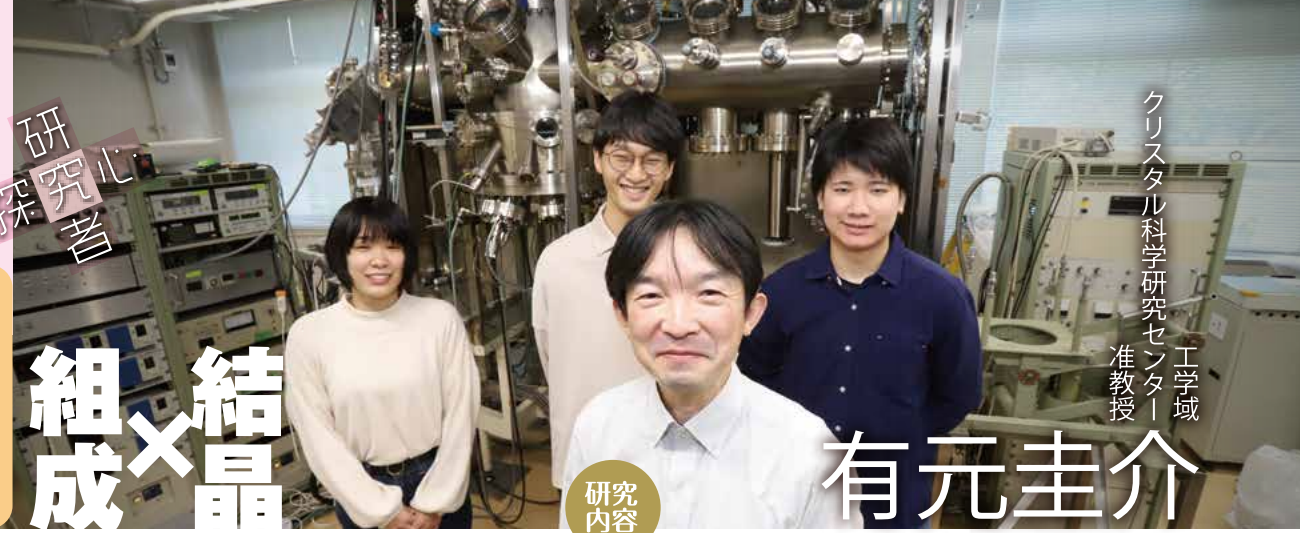
Background

学歴・経歴

略歴：名古屋大学大学院薬学部製薬学専攻卒業>>名古屋市立大学大学院薬学研究科医療機能薬学専攻修了>>愛知学院大学薬学部助教>>名古屋市立大学大学院薬学研究科助教>>現職
取得学位：博士(薬学)

研究者
探り手

組成×結晶



工学域
工学センター
准教授

有元圭介

研究内容

私たちの生活は様々な電子機器に支えられています。電子機器の部品として欠かせないのが半導体です。半導体は規則正しく並んだ原子からなる結晶です。私はこれまで化学組成が異なる半導体を組み合わせた結晶を作り、その物理的性質を研究してきました。これまでに、境界面の方位を工夫することにより電流を担う粒子の実効的な質量が軽くなり電気伝導度が大幅に向上する現象等を見出しました。発光や光吸収といった光学的性質の研究にも取り組んでいます。

Reason 研究者になったきっかけ

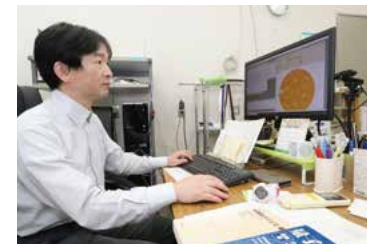
消せなかった研究意欲

大学院で修士の学位を取得後、研究職以外の職種で身を立てようと思い、企業のマーケティング部門に就職しました。しかし、業務に携わるうちにモノづくりの現場や研究開発に関わりたいという願望が強くなってしまい、研究職で人材を募集していた別の会社に転職しました。その後その会社も辞め現在の職場に移り、私が助手を務めた先生の御指導の下で博士の学位も取得しました。研究職に転向した際はやっていけない自信もなかったのですが、自分が何をやりたいかが一番大事だと思い挑戦しました。学生時代の研究生生活はすごく大変だったのですが、多くの学びを与えてくれました。あの日々が私を研究の世界に導いてくれたのだと思います。

Recommend 中高生にオススメ

今、あなたの1番の興味は？

小学生の時「ハレー彗星の地球大接近」という出来事があり、それがきっかけで宇宙や科学関連の本を繰り返し読んでいたのを覚えています。高校時代には植村直己さんの著作に大いに感化され、その結果大学では登山にのめり込みました。10代の頃の経験・体験はどれも私の人生の宝物であり、今の自分につながっていると思います。多感な時期に様々なことに触れ、熱中できることに出会って欲しいと思います。



パソコンはパワー重視。



機器操作は正確さが何より大切です。



同僚や学生達と登った金峰山。左が筆者、右は当時同僚だった北海道大学の三浦章さん。

Healing 癒し&気分転換

登山とスキューバ

学生時代から始めた登山や会社時代に始めたサイクリングが今も私の趣味です。素晴らしい景色に出会えたり達成感を感じられたりもあるのですが、一番の魅力は自然に包まれて解放感に浸れることです。数年前から始めたスキューバダイビングも私の癒しです。水中を漂いながら沢山の魚達に出会えるのはとても楽しい体験です。コロナ禍もあり実際はほとんど活動できていないのですが、次の計画を練ったり過去の記録を眺めたりするのが今は癒しの時間ですね。それから書道教室に通っているのですが、これも気分転換になっています。動画サイトにも書道コンテンツが多くあり、上手な方の動画を見るとテンションが上がります。

Background

学歴・経歴

略歴：東京大学工学部物理工学科卒業>>同大学院工学系研究科物理工学専攻修士修了>>日本テキサス・インスツルメンツ株式会社>>コーニング・ジャパン株式会社>>山梨大学大学院附属結晶科学センター>>山梨大学大学院医学工学総合教育部博士課程修了>>現職
取得学位：博士(工学)

研究者
探心者

聴覚×工学

研究内容

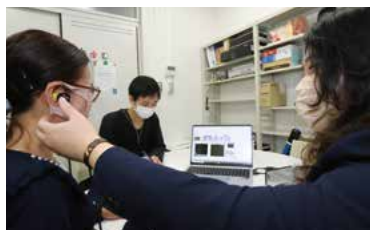
工学部機械工学科
助教
李 信英

機械工学では、物に作用する力とその動きとの関係に基づいて数理モデルを立て、物理現象の理解・応用に取り組む研究が多く行われています。私は耳鼻科領域における医工連携の研究を行っており、聴覚器の数理モデルを用いた聴覚メカニズム(聞こえの仕組み)の解明に取り組んでいます。また、耳音響放射と呼ばれる聴覚感覚細胞が発する微小音を計測し、その発生メカニズムを理解し、難治性の耳疾患の新たな診断法への応用法の開発も行っています。

Reason 研究者になったきっかけ

車のCMに感銘!

「振動で音楽を聴ける車の座席シートを作って、聴覚障害者に生まれて初めての音楽をプレゼントする」というある車会社のCMに偶然接し、大変感銘を受けました。それを機に大学卒業研究テーマに医工連携研究を選択したことが研究者としての第一歩でした。卒業研究では、医師との打ち合わせや大学病院での計測も多く、普通の機械工学科では経験できない貴重な経験ができました。徐々にその研究分野への興味も増し、それに連れて新しい知識やスキルも増えて行き、研究が楽しくなりました。そのうち難治性耳疾患で苦しむ人々の多さや大変さを実感し、「自分の研究がその解決に役立つかも知れない」とやりがいを感じ、研究者の道を進み精進しています。



耳の中の聴覚感覚細胞が発する音を計測しています。



コンピュータ上で聴覚器モデルを作成し、シミュレートします。



コロナ禍で延期になった国際学会(@アメリカ)に参加し、研究成果の発表を行いました!

Recommend 中高生にオススメ

言語力の向上に取り組む

言語力は物事を理解し伝える重要な力であるため、その向上に取り組むことをお勧めします。日本語の様な自然言語処理だけでなく、コンピュータ言語や物理の言語である数学の理解にも役立つと思います。好奇心を持ち不思議に思ったことに関して自分で調べて自分なりに考えをまとめてみるのも良いと思います。また、日本機械学会など様々な学会で中高生向けのイベントを開催しているので、興味があれば参加し見聞を広げてみてください!

Healing 癒し&気分転換

趣味活動の分野を開拓する

最近の私の癒しと言えば、愛らしい姪たちです。子供たちの無邪気な笑顔とピュアな行動に癒されます。また、研究とは全く違う分野の趣味活動を行い、気分転換しています。脳にも普段とは違う新しい刺激になり研究活動における新しいアイデアにも繋がると思います。基本的に多趣味ですが、コロナ禍の前にはバイオリンのレッスンやテコンドーの稽古を受けによく出かけていました。ここ2年間は主に家でできるジグソーパズルをやったり海外ドラマ鑑賞したりして気分転換していましたが、そろそろ外部活動を始めようと模索中です。新たな趣味活動が楽しみです。

Background

学歴・経歴

略歴: 電気通信大学情報理工学部知能機械工学科卒業>>同大学大学院情報理工学研究科知能機械工学専攻博士前期課程修了>>同大学大学院情報理工学研究科知能システム学専攻博士後期課程修了(日本学術振興会特別研究員DC2)>>電気通信大学UECポスドク研究員>>現職
取得学位: 博士(工学)

研究者
探心者

土壌×菌類

研究内容

生命環境学部生命工学科
准教授
山村英樹

放線菌は大村先生がノーベル賞を受賞したエバーメクチンの生産菌として知られています。私達の研究室では放線菌の分離方法や新種の提案を行っています。放線菌は土壌などの自然環境中に多く生息していますが、一般的な方法では既に知られている放線菌しか分離できません。そこで、特に希少な放線菌の分離方法を考案しています。得られた放線菌は他大学の先生と共同で新規抗生物質を生産しているかを評価しています。

Reason 研究者になったきっかけ

砂利山の中のキラリ

小学生のころに、家の近くにあった砂利山の中にキラキラ光る石がありました。そのキラキラ石に惹かれ、普段目にする何気ないものの中に、よく見ると面白いものがあることを知りました。もちろん、キラキラ石は収集していました。NHKの地球大紀行という番組も大好きで見っていました。そして、大学では小さくて面白そうな微生物を研究する研究室に入り、そこで環境から微生物を分離することを卒論のテーマにしました。そして、大学院で恩師の早川正幸先生から放線菌や分離方法を教わり、放線菌研究をスタートさせました。集めることが好きだったことや分離方法を試行錯誤しながら考案し、よりレアなものを集めることができるのは楽しいですね。

Recommend 中高生にオススメ

あえて未知の本を読んでみる

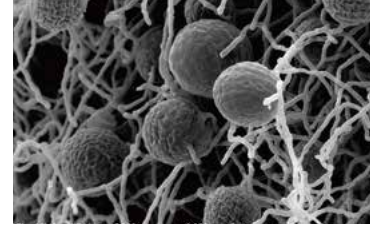
とにかく紙の本を読んでみるというでしょう。いろんなジャンルに触れることもよいと思います。図書館では名作と呼ばれる本を探して読むのもいいのですが、片隅で埋もれている本を積極的に手に取ってみるのも世界が広がると思います。今、インターネット上のレコメンド機能が発達しているため、類似のものも多く目に付く機会が相対的に増えてきています。あえて自らの手で変化を追求していく姿勢は良い刺激になると思います。



古い書籍は過去の研究者との対話。



収集し培養し観察します。

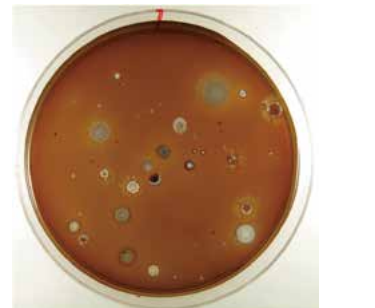


放線菌の電子顕微鏡写真、とってもレアな放線菌です。

Healing 癒し&気分転換

有機無機の収集

趣味とかは特にないような気がします。強いて言うなら音楽を聴くことでしょうか。高校生のころ、古いものに憧れておりまして、「レコードで音楽を聴くこと」にはまっていました。中古ですが、安く音楽を入手できる機会でしたので、いろんなジャンルに挑戦していました。もしかしたら何かを収集することが気分転換になっていたかもしれません。



土から分離された放線菌、レアを見つけるぞ!

Background

学歴・経歴

略歴: 東海大学開発工学生物部工学科卒業>>山梨大学大学院工学研究科博士前期課程化学生物工学専攻修了>>山梨大学大学院工学研究科博士後期課程物質工学専攻>>(独)製品評価技術基盤機構/バイオテクノロジー本部資源開発課研究職員>>現職
取得学位: 博士(工学)

研究者
探究心

生命×園芸



生命環境学部地域食物科学科
助教

研究内容

榎 真一

「ブドウの生命現象を解き明かし、高品質な果実生産のための農業技術を創出」を目標に、植物生理学・園芸学的な視点からブドウの研究をしています。ブドウの「栽培を簡単に」「果実品質の向上」が現在のテーマです。ブドウの成長遺伝子を特定し、その遺伝情報を活かすことで、栽培し易い新品種を作っています。また、地球温暖化によって果実の色付きが悪くなる原因を解明し、その発見をもとに環境に優しい着色改善農法の開発を行っています。

Reason 研究者になったきっかけ

知りたい欲求

きっかけは「好きな事を追求したい」という想いからです。現在は園芸植物を研究対象としていますが、これは地元が自然豊かな場所という事が由来ですね。「植物の不思議さ・美しさ」に魅かれ、学生時代は仲間と一緒に没頭し、胡蝶蘭という花の生産や品種改良の方法について研究しました。今ではいろんな経歴を経てブドウを扱っています。研究対象は変わっても、「知りたい」という気持ちや植物への興味は変わらず、自分の中に在ります。大学教員になってからは、その興味を活かし人の役に立つという視点を持ち、「自分の好奇心を満たしながら、研究を通じて社会に価値を提供したい」という想いで、研究・教育に携わっています。



研究だけでなく学生さんへのアドバイスもします。



研究中のブドウの苗がたくさん育成棚にびっしり。



お気に入りのミニ胡蝶蘭。

Recommend 中高生にオススメ

体験の蓄積が「自分の価値観」構築に

学生時代は好きな事を何でもやってみてください。書籍や映画などの作品鑑賞、部活動などの他者との交流体験、なんでもいいと思います。他者の多様な考え・価値観に触れて、自分との違いを知ることは大事です。それらを通じて、自分が何を大切にしているのか「自分自身を知る事」をお勧めします。多感な学生時代に養った「自分の価値観」は、皆さんが今後、進学や就職など人生の岐路に立った時の大きな道標になると思います。

研究者
探究心

理論×実践



国際交流センター
特任助教

研究内容

布村 猛

日本語学習者のイントネーションを対象として研究をしています。具体的には、学習者の母語がもつイントネーションのシステムが、日本語のイントネーションの習得にどのように影響するか、そして日本語らしいイントネーションを習得するにはどのような指導が必要か、といったことに関心があります。イントネーション指導は、教師に求められる専門知識も多く、指導しにくい項目として扱われています。この現状を変えるような成果を発信していきたいです。

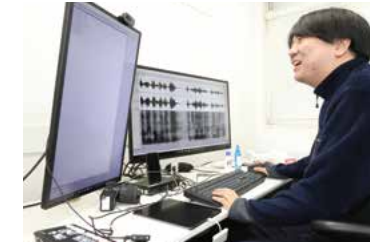
Reason 研究者になったきっかけ

理論と現場を繋ぐ

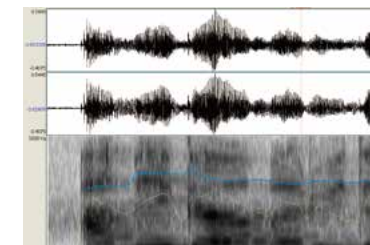
きっかけは、研究で明らかになる理論と教育の現場を繋ぐ存在になりたいと思ったことです。幸運なことに大学三年生の頃から、日本語教育のキャリアを日本語学校でスタートさせることができ、その後、地域の日本語教室や定時制高校の国語科、大学の留学生日本語教育センターなど様々な現場を経験できました。その中で、大学から離れた現場であるほど、最新の知見に触れる機会が十分になく、新しい理論を取り入れた教育が実現しにくくなっていることに気がつきました。このような理論と現場のギャップを埋めるために、積極的な成果の発信を、非研究者にもわかりやすく、実際の教育につながる形でしていきたいという思いがあります。



初級日本語教育を担当しています。



留学生とのリモート授業もここからします。



このように音声を可視化したものと、いつもにらめっこ状態です。

Healing 癒し&気分転換

温泉でリラックス

温泉に行くことです。三度のご飯よりもお風呂が好きな私にとって、大学から家までの帰り道に気軽に立ち寄れる温泉があることは、本当に幸運なことでした。特に、研究のアイデアに煮詰まったときは、必ず温泉に行きます。温泉に入ってリラックスしながら研究のことを考えると、不思議と頭の中で混沌としていた思考がずっと整理されていくような感覚になります。また、コロナ禍のさなかに山梨に来て、知り合いがほとんどいなかった私にとって、温泉の常連さんたちと繋がりができたこともとても心強かったです。いつか私も、お風呂で大発見をしたアルキメデスのように"Eureka! Eureka!"と叫んで、甲府の街を走り回りたいものです。

Recommend 中高生にオススメ

無駄や回り道も糧になる!

中高生の皆さんには、一見無駄だったり、回り道に思えるような経験を、積極的に積み重ねてほしいと思います。皆さんはこれから進路選択を通じて、自分の人生の目標を明確化し、進む道を徐々に限定していくことになります。その中で、様々な壁にぶつかり、思い悩むこともあるかもしれませんが、そのようなときに、目標にはあまり関係のないような、無題に思えた過去の経験が意味を持ち、あなたの目標達成を支えてくれはらずです。

Background

学歴・経歴

略歴: 東京外国語大学外国語学部日本語専攻卒業>> 東京外国語大学総合国際学部日本語教育専攻コース修了>>現職
取得学位: 修士(言語学)

Background

学歴・経歴

長岡技術科学大学工学部生物機能工学専攻卒業>> 長岡技術科学大学大学院生物統合工学専攻修了>> 山梨大学ワイン科学研究センター研究員>>現職
取得学位: 博士(工学)

研究者
探

健康×環境

研究
内容

久島 萌

出生コホート研究センター
特任助教

出生コホート研究は、胎内および出生後の環境要因が健康にどのように影響しているのかを明らかにしようとする研究です。現在、日本の大規模な出生コホート研究である「子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)」に携わり、胎児期(妊娠期)からの親子を追跡調査して、心身の健康と発達にはどのような環境要因が影響するのかを研究しています。

Reason 研究者になったきっかけ

予防医学の重要性

看護師として病院勤務をしていた頃、病気の検査や治療過程にある患者さんやその家族と接しているうちに、健康を保ち病気にならないようにする予防医学の重要性を実感しました。そして、「健康に関連することからの頻度、分布、影響を与えている要因などを明らかにする疫学」や「社会で暮らす人々の健康の保持・増進や、病気を予防するための公衆衛生学」に興味を持ちました。その後、大学院に進学し疫学分野の視野を広げ、健康と環境について研究したいと思ったことがきっかけです。また、大学院で多くの研究者や研究結果に触れるうちに、研究の面白さを肌で感じ、好奇心にかられたこともきっかけのひとつです。



定期的に参加者の方々に協力いただいています。



どうしてもデスクワークが多くなります。



毎朝息子と一緒に水やりをしています。

Recommend 中高生にオススメ

多様な価値観との遭遇

ぜひ豊かな経験を積んでください。そして、様々な人に出会ってください。経験に基づく知識は勉強だけの知識とは比にならないと言われています。また、人との出会いは多様な価値観を生み出します。自分の好きなことや得意なことはもちろんですが、それに限らず、様々なことにチャレンジしながら広い世界に触れてみてください。

Healing 癒し&気分転換

自然観察と子供の成長

朝の澄んだ空気や夜の広い星空を眺めることが好きで、日々の癒しとなっています。休みの日には、四季折々の景色やスポーツを楽しむことでリフレッシュしていました。外出が難しくなってからは、ささやかなスペースで家庭菜園やガーデニングを楽しむことでリフレッシュしています。自然に触れると五感が研ぎ澄まされ、とても気持ちが良いです。また、子どもが生まれてからは、子どもの日々の小さな成長が嬉しく癒しとなっています。これからの成長がとても楽しみです。

研究者
探

醸造×成熟

研究
内容

貝沼元氣

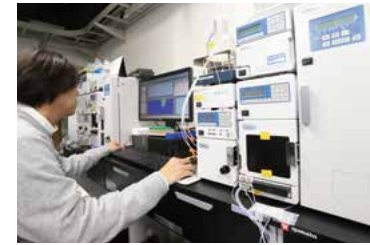
大学院医工農学総合教育部
博士課程
統合応用生命科学専攻
生命農学コース
2年

ワインを樽に入ると、樽からの抽出成分によりワインが美味しくなります。樽は木材からできていますが、板を雨ざらしにしながら乾燥させることが重要であると言われています。さらに、樽の内側は焼いてあり、このトーストにより木材内部では非常に複雑な反応が起こり、木材には含まれない様々な化合物が生成されます。これらの成分の中で、私は「味成分」に着目しています。樽熟成がワインを美味しくする理由を明らかにすることが私の研究の目標です。

Reason 山梨大学を選んだ理由とその魅力

好奇心の種がワイン研究に

私は分からないこと、出来ないことがあると気になってしょうがない性格です。理解し、習得するまでとことん突き詰めます。そんな私が持つ大量の「分からない」の中で最も惹かれたのが「化学」という学問分野でした。以前は、化学を徹底的に学べる高専に在籍しており、卒業研究のテーマは赤紫系果実を使ったワインの商品開発でした。テーマに熱中するにつれてブドウで造ったワインの研究に挑戦したい気持ちが膨れ上がり、国内トップレベルでワインの研究を行える山梨大学への進学を決めました。本校は、国内のワイナリーや、海外の大学・研究機関との繋がりが強く、ワインについての勉強を万全な環境で行えます。ここだけの話、とてもおすすめです。



ほぼ毎日検査機器とにらめっこです。



ワインと樽用木材の経時変化も研究します。



これが私の処方箋です。

Recommend 中高生にオススメ

自分の直感を信じてみる

実は、中学では理科は苦手でした。ですが、ただ好きという理由だけで高専に飛び込みました。直感です。最後の決め手は呆れるほど単純で、オープンキャンパスで見た白衣姿の先輩がとにかく格好良く見えたからです。ここに入れば湯川学になれると思いました。些細な出来事なのですが、それまで経験したどの出来事よりも鮮烈な体験でした。結果として私は自身の得意よりも好きを信じました。ちなみに今も変わらず理科、大好きです。

Healing 癒し&気分転換

音楽の処方箋

私は、自分の気持ちを整えるために音楽に触れます。聴くこと、見ること、それから演奏することも大好きです。少し疲れたと感じたら大好きな音楽をちょっぴり大きな音で聴きます。耳に悪いなあ…と思いつつこれだけはやめられません。音楽は不思議なもので、聴いていると疲れが和らぎます。一番効き目がいいのは生の演奏を聞くことです。憎きコロナに生演奏を聞く機会を阻まれていましたが、落ち着いたらその分を巻き返したいと思っています。以前、見に行ったジャズサクソフォーン奏者の渡辺貞夫さんのライブは特に忘れられません。仕事に対する情熱や技術は自分次第で磨き続けられるんですね…。あんな年齢の重ね方、とても素敵です。ああ、また聴きたい。

Background

学歴・経歴

略歴: 苫小牧工業高等専門学校専攻科環境システム工学専攻卒業>>山梨大学大学院医工農学総合教育部修士課程生命環境学専攻食物・ワイン科学コース修了>>山梨大学大学院医工農学総合教育部博士課程統合応用生命科学専攻生命農学コース在籍
取得学位: 学士(工学)、修士(農学)

研究者
探検

量子×効率

研究
内容

小見山 朋子

大学院医工農学総合教育部
修士課程
工学専攻
コンピュータ理工学コース
2年

新しいコンピュータである量子コンピュータを利用して、最適化を行う手法の提案と評価を行なっています。普段皆さんが使用しているコンピュータと全く異なる手法で計算を行う量子コンピュータは、従来のコンピュータよりも高速に計算ができる可能性を秘めています。未だ量子コンピュータ自体が開発段階にありますが、将来実用化されたときのために、この技術をどのように使えば効率よく問題を解くことができるのかを研究しています。

Reason 山梨大学を選んだ理由とその魅力

最初は「広く学ぶ」から

情報系といってもAIやソフトウェア開発、スパコンを用いた高性能計算など様々な分野があります。高校生の頃は情報系の勉強がしたいということは決まっていたのですが、どの分野をやりたいかまでは定まっていなかった(よくわかっていなかった)ので、広く学ぶことのできる大学を選択しました。

結果的に、量子コンピュータという進学の時点では思いつきもしなかった最先端の分野で研究をしているので、広く学んでおいて良かったと思っています。この研究は日本でも未だ研究者の少ない分野ですが、他の分野や他大学の教授の方々にも多角的なご指導を頂きながら研究を進めることができます。

Recommend 中学生にオススメ

様々な友人との交流

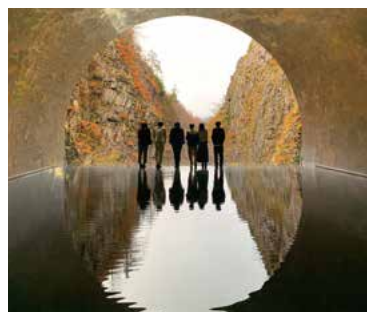
ありきたりですが、友人を大切にしておくのが良いと思います。大学の友人は同じような分野に偏ってしまいがちですが、高校までの友人は各々違う分野に進学することが大半です。違う分野の話聞くのは世界が広がりますし、研究や仕事に関して生き生きと話す友人たちを見ると自分も頑張らなければと刺激ももらえます。様々な趣味趣向の友達を作っておくと、面白いかもしれません。



組んだプログラムは遠隔地にあるマシンに送ります。



ゼミでは実験で得られた結果などを議論します。



年に1回は高校の同期と旅行します。(写真は新潟の清津峡です)

Healing 癒し&気分転換

ドライブの旅

気分を変えたい時は旅に出ます。最近ではコロナ禍なこともあり、車を運転して国内旅行に出掛けています。情報系はPCがあればどこからでも研究ができてしまうので、なかなか切り替えが難しいのですが、車の運転をしている間は他のことが何もできないので半強制的に気分の切り替えができます。長距離運転が苦ではないので、道中にご当地グルメや景色を楽しみつつ、四国や九州まで運転することもあります。とはいえ、長距離の移動は片道6時間以上かかることもあるので、1~3時間で国内どこでも行ける飛行機が恋しくなりつつあります。

Background

学歴・経歴

略歴:長野県立松本深志高等学校卒業>>山梨大学工学部コンピュータ理工学専攻卒業>>山梨大学大学院医工農学総合教育部修士課程工学専攻コンピュータ理工学コース在籍
取得学位:学士(工学)

主な
取り組みの
紹介

山梨大学

男女共同参画推進室



ホームページ随時更新中。
当室ホームページでは、各種コンテンツを掲載しています!
<https://danjo.yamanashi.ac.jp/>

両立可能な環境の整備

◆キャリアアシスタント制度

ライフイベント中の研究者へキャリアアシスタント(通称CA)と称する、実験や論文検索などの研究活動を補助するサポーターを派遣。

◆女性研究者のための産休・育休からの復帰支援制度

産後の特別休暇、および育児休業から職場復帰した女性研究者に対し、研究助成金を支援。

◆女性研究者のための論文投稿費と英文校閲費支援制度

ライフイベントにより研究活動が停滞した女性研究者の論文作成に伴う経済的負担を支援。

◆社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園と連携した育児支援

宮前保育園の一時預かり事業、病児・病後児保育事業と連携し、学内の育児支援を実施。山梨大学の教職員・学生なら誰でも特別料金にて利用可能。また、学内に学会や研修会等を開催する際には、保育士の派遣も利用可能。

次世代研究者の育成

◆山梨大学男女共同参画 学術研究奨励賞

女性研究者を顕彰することによりその研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進等に資することを目的とする顕彰制度。

◆キャリアアシスタント制度を通じた研究職希望者の育成

「両立可能な環境の整備」でも紹介したキャリアアシスタントは、研究者の仕事の間近で見られるうえ、将来のライフイベント時における仕事の在り方を具体的にイメージすることができ、研究職を志す学生におすすめ。

◆C oの花フェローシップ

将来を担う創造性に富んだ女性研究者の育成に向け、研究に専念できる環境の提供とキャリアパスの確保を支援。大学院博士課程に在籍する優秀な女子学生に対し、研究専念支援金及び研究費を支給。

交流の場と情報の提供

◆交流スペースの設置

誰もが気軽に利用できる交流スペースを設置。研究者・職員・学生同士の情報交換や交流、ライフイベントに関する情報の収集と交換の場として利用可能。

学内連携の強化

◆学内の人的ネットワークの強化による環境整備

学内に設置されている様々な支援室やセンター、委員会等とのネットワークを強化し、山梨大学が「誰もが働きやすく、学びやすい環境」であり続けるための提案や取組を実施。

◆意識改革&スキルアップのためのセミナー・講演会

学内の意識改革や教職員・学生のスキルアップのために、各種セミナーや講演会を実施。



女子中高生の理系進路選択支援プログラム

山梨県内の女子中高生を主な対象として、理系分野に対する興味、関心を喚起し、理系分野へ進むことを支援するため、様々なイベントを実施。

◆出前講義(ドローン、プログラミング)

◆ガールズサイエンス cafe

※令和4年度はオンラインにて実施

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

文部科学省の科学技術人材育成費補助事業である「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)」(令和2年度~7年度)に採択され、シミックホールディングス株式会社と株式会社はくばくとともに様々な研究者支援の取組を実施。

◆ダイバーシティ研究環境整備のための取組

◆女性研究者の研究力向上のための取組とそれを通じたリーダー育成のための取組

◆女性研究者の上位職への積極登用にに向けた取組

◆地域社会への波及とイノベーション



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
YAMANASHI NETWORK
FOR DIVERSITY & INNOVATION



UNIVERSITY
OF
YAMANASHI

山梨大学 男女共同参画推進 学長宣言

本学は、国立大学法人化の平成16年度(2004年度)に「山梨大学男女共同参画の提言」を策定、平成27年には男女共同参画の加速を大学運営の緊急かつ重要な課題と位置づけ「男女共同参画加速のための山梨大学学長行動宣言」を公表し、本学に集う全ての構成員が、その個性と能力を十分に発揮できる大学とするよう努めて参りました。

第4期中期目標中期計画期間においては、これまで本学が行ってきた男女共同参画をさらに前進させるべく、性別、性的指向、性自認等に関わりなく、知の集積拠点として、持続的に新たな価値を創出し、発展し続けるため、以下の項目について積極的に推進することを宣言します。

基本方針

1. 男女共同参画推進体制のさらなる確立
2. 女性研究者の採用拡大と育成の促進及び研究活動の支援
3. 大学運営への女性参画の推進
4. 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進
5. ダイバーシティ推進に関する教育・啓発活動と学内外の協力・連携

行動計画

1. 学長のリーダーシップをより発揮し、男女を問わず全ての教職員が働きやすい職場環境づくりを進める。
2. 女性研究者を積極的に採用し、女性教員比率を22%に引き上げるとともに、意思決定過程への女性の参画を推進するため、女性教授比率を13%、事務系女性管理職比率を10%に引き上げる。
3. ライフイベント中の研究者に対して積極的な研究支援を引き続き行う。
4. 育児・介護・特別休暇などの各種支援制度を整備することにより、教育・研究環境及び就業環境の整備を行う。
5. 地域社会と連携して、全構成員にダイバーシティを重視する意識を醸成し、性別、性的指向、国籍、年齢や障がい等に関わらず、多様な構成員が個性を尊重され、自由で対等に活躍できる学修、研究、就業環境の実現を図る。

令和4年4月
国立大学法人山梨大学
学長 島田 眞路

ナシダイResearchers Vol.10

発行

2023年2月

国立大学法人 山梨大学 男女共同参画推進室

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 TEL:055-220-8350 FAX:055-220-8351

Email:danjo@yamanashi.ac.jp

URL:https://www.danjo.yamanashi.ac.jp

印刷:港北メディアサービス株式会社

協力:山梨大学